



## 素晴らしい出会い 米留学を終えて

人文学部 社会科学科

地域研究・社会学コース3年 大谷美香

昨年8月から今年5月まで米国アラバマ州のアラバマ大学バーミングハム校に留学しました。帰国した今、ほっとした気持ちもありますが、それ以上に終わってしまった寂しさの方が大きいというのが正直な感想です。



英語が少し得意だったということもあり、入学当初から目標として準備を進めてきました。茨大には多くの協定校があるということを知り、少ない枠に入れるよう TOEFL の勉強を始めました。



選考基準が TOEFL の ITP だったのでこれを受けましたが、これから目指す人はインターネットで受験する IBT の方がいいと思います。

点数が良ければ良いに越したことはありません。基準点をクリアしたからといって、勉強は止めないほうがいいです。留学先でもっと勉強しておけばよかったと必ず後悔します。

ここまで話すと留学ってそんなに大変なのかと思うかもしれませんが、留学しなければ得られなかった、であろう様々な経験もすることができました。

留学を通して得たものは何かと聞かれると、忍耐力と適応力です。当然ですが、毎日、どんな人と接するにも英語が基本です。たとえわからなくても自分で何とかしなければなりません。

全く自分の成長が目に見えず、自分が嫌になることなんて数え切れません。毎日何かしらの悩みを抱えていま



した。そんな時でも、自分を信じ、成長したという実感が持てるまで耐え続けました。

話すほうはまだまだですが、帰国前には、アカデミックの授業での教授の話がほとんど聞き取れるようになっていました。適応力という面では文化や習慣だと思います。

アメリカの文化は日本とまるで逆です。どちらがいいということはありません。しかし、今までずっと日本で育ってきたわたしにとって文化に慣れるということ結構大変でした。

寮に住んでいて、ルームメイトもアメリカ人でした。前期は必要以上の会話がなくて、ほんとに仲良くなれるのかとても不安でした。その上、週に何度かは自分の部屋に大勢の友達を連れてきてかなりの大音量で話しているの、眠れないこともありました。



それも受け入れてしまえばなんてことはありませんでした。いい意味で諦めたとも言えるかもしれません。ここはアメリカなんだ、と。そこからは何がきっかけか覚えていないのですが、次第に仲良くなり、一緒に食事に行き、他愛のない会話もできるようになりました。



こんなに騒がしい部屋で過ごすなんて、最初は憂鬱だったのに、帰国する頃にはもうみんなの声が聞けないんだなどと考えると、とても寂しかったです。

1年間の生活でたくさんの素晴らしい出会いがありました。離れてしまったけれど、またいつか皆に会うためにアメリカにも行きます。ずっと連絡を取り続けていくつもりです。

出会いがあったからこそ留学生活は充実していました。人との出会いがとても大切で、自分を大きく成長させてくれるということを実感できる最高の留学生活でした。こんな体験を一人でも多くの人にしてほしいと思います。

少しぐらいの不安は新しい環境が拭い去ってくれますよ！

